優　良　賞

ルールとマナー

智辯学園奈良カレッジ中学部　一年　別所　優薫

新型コロナウイルスの感染が流行してから自粛生活を送らない人を取り締まる「自粛警察」やマスクを着用しない人を攻撃する「マスク警察」といわれる人や集団が出てきた。

悪いことをした人を取り締まるのは警察の仕事のはずだが、今の時代、勇気を出して注意した人が犯罪に巻き込まれたり、正しいことを言っているはずなのに、行きすぎてしまってそのことが批判されたりしてしまうことがある。そこで私は今の社会を生きるルールとマナーについて考えてみた。

まず、言葉を整理する。「ルール」とは、「社会の秩序を保つための規則」で、「マナー」とは「円かつな人間関係を築くための礼儀」と整理できる。言い換えると、ルールは絶対的なもので、場合によっては罰則を伴うことがあるのに対して、マナーは習慣的なもの、つまり、人や環境によって判断が異なったり、気にする人と気にしない人がいたりするなど判断が難しい。それでも、周りの人に不快な思いをさせることはしないほうが良いに決まっている。そのための気づかいがマナーだ。

最近、電車に乗っているときに、携帯電話で話をしている人を目にすることが増えた。イヤホンで話をしている人もいるし、電車の中でも辺り構わず大声で話をしている人もいる。電車の中では「携帯電話はマナーモードに設定の上、通話はご遠慮ください。」というアナウンスが流れているのに、我関せずといった様子で平気でいつまでも話をしている。周りのお客さんも迷惑そうな顔をしているが、誰も注意しない。もちろん、私にもそんな勇気はない。どう考えてもそのお客さんの方がルールを破っているし、マナー違反をしている。でも、もしその人に注意をして逆上されたらどうしよう、注意したこっちの方が悪者扱いされてしまうのではないかという不安がどこかにある。

電車のアナウンスも「通話はルール違反です。」とか「通話はマナー違反だからやめましょう。」と断定的な表現をせずに「ご遠慮ください。」と一歩引いたような柔らかい表現を使っている。この柔らかさがむしろ乗客に対して、「禁止」というメッセージではなく「できればやめてください。」という注意喚起という意味合いを持ったメッセージを伝えている。

「電車の中では携帯電話で通話をしてはいけない。」という明確な法律や規則、つまりルールは今の日本社会にはない。だからマナーとして「電車の中で通話はやめましょう。お互い様ですから。」ということを鉄道会社は伝えているのだろう。

確かに、電車の中で緊急事態が起こった時あるいは、家族や身内に重大な出来事が起きて電車に乗っている人に伝える必要がある時など、完全に通話を禁止してしまうことが難しいのもよくわかる。だからこそ、私たち一人一人のマナーが大事なのだと思う。

社会には、「人を殺してはいけない。」とか「人の物を盗んではいけない。」といった明らかに法律で定められている基本的ルールがある。でも、このルールだけでは人と人が関わる社会を互いが心地よく生活していくのは正直難しい。だからこそ、マナーを守ることが欠かせない。

誰しも感情の起伏や色々な考え方があって当たり前。でも、どんなときでもマナーを守る気持ちを忘れてしまってはいけないと私は思う。マナーは個人の主観によって左右されるあいまいなもの。だからこそ、私はまず、自分の周りの人にちゃんと関心を持つ。そして私が関わる人がどんなことに関心を持って、どう考えているのか、私がとる言動にどう感じるかなどを考えて、感じながら行動していける、「マナーを守れる」人間になれるようにしながら生きていきたい。